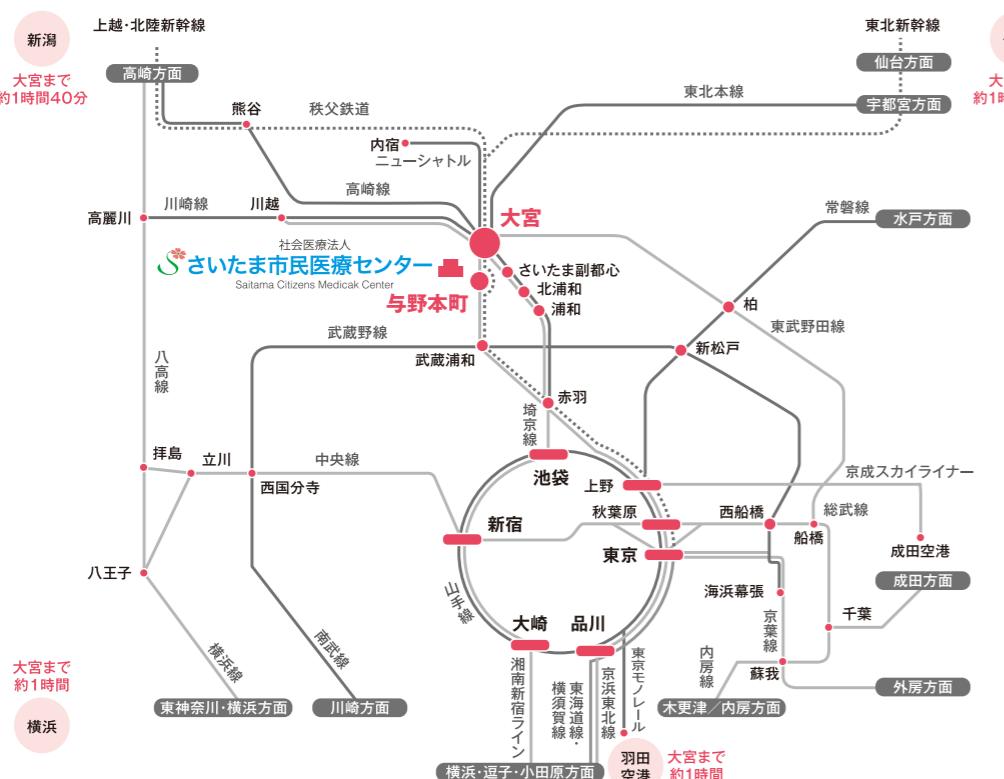


## 交通路線図



## アクセス



## Saitama Citizens Medical Center

〒331-0054 埼玉県さいたま市西区島根 299-1

[お問い合わせ先]

TEL.048-626-0011(代表) / FAX.048-799-5146

E-mail. soumu@scmc.or.jp

(窓口：事務部総務課 採用担当)

募集詳細はHPをご覧ください <http://www.scmc.or.jp/>

さいたま市民 研修医

検索



# 社会医療法人 さいたま市民医療センター

Saitama Citizens Medical Center

初期臨床研修プログラム  
総合診療専門研修プログラム



# 心と命をつなぐ、 ホスピタリティを

さいたま市民医療センターは  
「患者中心の医療を目指す総合医」と  
「専門的技術と視野を兼ねた専門医療支援」の  
ホスピタリスト(病院総合医)による医療の実践を  
目標としています。

厚生労働省の基準案に従った  
ローテート方式による臨床研修プログラムを策定し、  
地域医療の実践的かつ幅広い研修が可能な  
初期・後期研修医のための研修プログラムを作成。  
その研修理念は、深い人間性に基づいた  
優れたプライマリ・ケアの臨床能力を修得した  
医療の提供ができる医師の育成です。  
研修医が将来どの方向の専門医に進んだとしても  
ジェネラリストとしての理念を保持できる教育を提供します。



開設 平成21年3月1日  
運営方式 さいたま市が建物等を整備し、社会医療法人が運営する公設・民営方式  
病床数 340床(回復期リハビリテーション病棟47床含む)

診療科目 内科 外科 耳鼻咽喉科  
循環器内科 消化器外科 放射線科  
消化器内科 乳腺・内分泌科 病理診断科  
呼吸器内科 脳神経外科 リハビリテーション科  
糖尿病・内分泌内科 整形外科 アレルギー科  
血液内科 小児科 内科(化学療法)  
腎臓内科 皮膚科 外科(化学療法)  
神経内科 泌尿器科 麻酔科

健診事業 日帰り人間ドック、脳ドック(オプションあり)

たすきかけプログラム  
マッチング率100%の  
実績をもって

患者数が多く  
幅広い臨床経験が積める  
恵まれた環境

自治医大との連携により  
一般的な疾患のみならず  
高度先進医療も学べる

当センターは自治医科大学附属さいたま  
医療センターの協力型臨床研修病院指定  
を受け、ホスピタリスト重視プログラム  
のたすきかけプログラムを担い、2014  
年以降連續で100%マッチングの実績  
を上げました。この教育経験を活かし、  
切れ目がない初期・後期臨床研修医のため  
のプログラムを策定し、深い人間性を持ち、  
優れたプライマリ・ケアの臨床能力を發揮  
する医師の育成をめざしています。

340床の規模で年間入院患者6,000人  
以上、救急車搬送年間約5,000件の救急  
収容能力を持ち、小児救急車搬送はさい  
たま市の約3分の1を受け入れています。  
当センターは内科医全員に総合診療経験  
があり、総合内科と救急部の一体的な運営や、  
外科では多くの緊急救命手術患者を経験でき  
ます。さらに少子高齢化先進地域にある病院  
のノウハウを投入するなど、次代の医療を担う  
ための経験を積める環境を形成しています。

prologue  
Saitama Citizens  
Medical Center

## 時代に求められる医師の育成を

病院長 加計 正文

現代社会において、医療の現場に求められているものは大きく変化  
しています。それでも変わらないのは患者さんのためになることを尊重  
する医師としての倫理です。しかしながら、超高齢化、複雑化する社会に  
おいて、その倫理を追求するには多様な能力が必要となっています。  
この多能性医師、すなわちホスピタリストを育成することが、当センターの  
臨床研修プログラムにおけるミッションだと考えています。  
多能性には患者さんとの信頼関係を築く力も含まれています。またこれ  
からは、チーム医療が必須であり、協力し尊重し合うという能力も求めら  
れています。そういった時代に求められる医師に皆さんにはなって頂き  
たい。のために、スタッフが一丸となって皆さんの研修成果の最大化、  
キャリア形成をサポートしていきます。



## プログラム統括責任者

### 時代のニーズに応えられるジェネラリストを育成します

副院長／内科 石田 岳史

超高齢社会において、医療の現場に対するニーズも変化しています。具体的には、患者  
さんが複数の疾患を抱えているケースが増加しているということです。それには広い視点  
から深く診ることができます。つまりジェネラリスト、ホスピタリストが求められています。  
患者さんの疾患が複雑化する中、患者さんのためを第一として、それぞれの分野のプロが  
議論し合い、最適な処置を行うというチーム力も求められています。当センターの研修を  
通じて、時代に求められている医師として力がつくようサポート致します。



## 初期臨床研修プログラム責任者

### どこに行っても活躍できる、医師としての基本が学べます

救急総合診療科科長 坪井 謙



当センターの研修プログラムは、「患者さんを診る力をつけること」を基軸としています。  
それは、赤ちゃんから100歳以上の方、病気、怪我、子供を診られるジェネラリストを育て  
るということです。そのため、内科、外科、小児科そして、救急をしっかり学んで頂きます。  
今後皆さんが専門医、総合医、小児科医と、どの道を選ぶにしても、患者さんを診る  
いうその基本は変わりません。その土台を築くことが必ず皆さんの将来的なキャリア構築  
に役立つと信じており、スタッフ全員が研修医の方々の指導にコミットしています。

## 初期・後期研修医と指導医が語る



### 初期臨床研修医

#### 相談できる環境で色々なことにチャレンジ!

大瀧 薫

出身が埼玉なので、地元の医師不足問題に少しでも貢献出来たらと思い、当センターの初期研修を希望しました。

まず実際に働いて驚いたことは、上級医の先生方への相談のしやすさです。医局が一緒なので顔を見て相談できますし、ちょっとした疑問にも親身に応えていただけます。これもコミュニケーションの皆さんを含め、それぞれ顔を知らない方はいないという環境であるのと同時に、病院が科を超えてチームとして患者さんに向きあっているからだと思います。また研修内容としては、内科、外科、小児科と幅広い経験ができるので、診療内容が細分化されていないので、様々な疾患の処置を学ぶことができ、普段から診察・診療の経験を積むことができます。

# さいたま市民医療センター



### 指導医

#### 患者さんの利益を基準として判断する力を

循環器科科長 中村 智弘

研修医の方にはできるだけ現場で責任を持つもらうようにしています。実践に基づいた経験を積むことが成長に繋がるからです。しかし、ただ任せるというのではなく、上級医とのコミュニケーションが常に取りやすい環境がここにはあります。循環器科では、患者さんを診てから毎日相談し合うようにしていますし、電話も24時間繋がるようにしています。

当センターには複雑な社会的背景、様々な疾患をお持ちの患者さんがいらっしゃいます。多様な患者さんと向き合うという経験を積むことは、今後皆さんがどの病院で活躍されるにしても、将来的に医師としてだけでなく、人間としての深みを増すことに繋がると信じています。

### 初期臨床研修医

#### 病院全体が研修医を受け入れ、育ててくれています

谷田部 幸平

研修先を決めるにあたって全国様々な病院を見て回ったのですが、ここを見学して即決しました。主な理由としては、病院の雰囲気に活気があったのと、内科の垣根が低いことです。実際に働いてみると、思っていたより更に過ごしやすく、病院全体が研修医を受け入れ、育ててくれていると感じています。研修では色々な科を回るので、多様な側面から患者さんのことを考える力がつくと思います。例えば、外科での3ヶ月を過ごすことで、外科の先生が内科からどんなことを知りたいかという視点も学べるなどです。そして、研修医の数が少ない分、指導医から密な指導を受けることができ、問題に直面した際も自分のことのように一緒に考えてくださいます。ここに決めて本当に良かったです。



### 指導医

#### 皆さんがあがむことに一緒に取り組みたい

小児科医長 野田 あんず

小児科では、研修医と上級医がペアになって診療にあたっています。研修で学べること、また学んで欲しいことは、患者さんとのコミュニケーション、そして実際の処置です。特に小児科においては、まだ話せない赤ちゃんの気持ちを見ること、保護者の方への対応、そして子供たちへの処置を支えてくれる看護師さんとの連携から多くを学ぶことができるでしょう。毎日夕方にカンファレンスを行い、患者さんの状態について互いに相談し合っています。研修医の方たちにはどんどん質問して欲しいし、やりたいこと、学びたいことをたくさん伝えて欲しいですね。研修医の視点が患者さんへのより良い処置のヒントになることがあるので、皆さんから私達へいっぱい刺激を与えて欲しいと思っています。



### 後期臨床研修医

#### やりたいがあれば機会を与えてもらえます

重吉 横子

初期研修をさいたま市民医療センターで受け、後期研修も継続して受けることにしました。

後期研修となると、3年目から主治医となり、責任と負担も大きくて不安もありますが、上級医の先生にとても相談しやすい環境なので、困ったら先生に助けて頂いています。様々な患者さんを通じて、今までいた世界だけが常識ではないと感じ、驚くこともあります。看護師さん達もフレンドリーなので働きやすい環境だと思います。また、例えば内視鏡がやりたい、エコーがやりたいなどの希望を伝えれば指導医の先生方がその機会を作ってくれるので、様々な処置を学べる機会があります。



### 指導医

#### 短い期間で多くの手術を経験できます

外科副部長 小峯 修

市中病院の特性から、当センターの外科は規模の割にたくさんの症例、手術を実施しております(年間700~750ケース、その内、緊急を要する手術は約250~300ケース)。その機会に立ち会える、手術に参加できるということは、短い研修医時代に貴重な経験をより多く学べるということです。実際の手術に臨んで学ぶことは膨大です。知識・手技はもちろんですが、肉体的にも精神的にも集中力、タフさを必要とします。そして手術で最も大事なことはチームワークです。その為にはコミュニケーション能力が求められるので、いろいろな経験を積んで視野の広い価値観や豊かな人間性を育んでほしいと思います。

# 初期臨床研修プログラム

ホスピタリストの養成を目的とし、  
研修医の意思も考慮した弾力性のある構成



## 《研修体制》

卒後7年以上の実質的な上級医を各診療科に配置し、うち1~2名が指導医となります。指導医は、2年間を通じての評価と指導はもちろんのこと、さらにメンターとして医学・医療以外の生活面や社会面での幅広い相談に関わる体制としております。

## 《オリエンテーション》

診療開始前に約1週間のオリエンテーションを行い、実際の診療に必要な項目を説明・解説します。

- |                  |                            |                    |
|------------------|----------------------------|--------------------|
| 1.センターの理念と研修の目的  | 5.診療録の書き方と病歴管理             | 9.在宅医療・福祉・介護       |
| 2.研修カリキュラムと研修の評価 | 6.死亡診断書の書き方、剖検のとり方(剖検室の見学) | 10.救急患者への対処の仕方     |
| 3.医療事故と安全管理      | 7.コンピューターオーダリングシステム研修      | 11.処方箋の書き方と薬剤の基本知識 |
| 4.感染対策           | 8.保険診療                     | 《体験講座》他職種の仕事の実態見学  |

## 《研修カリキュラム》

1~3カ月で1クールのローテーション方式。ローテーションする順番は研修医全体のローテーションの中で決定するため、順不同です。  
2年間の研修進捗管理を行い、臨床研修目標が到達可能となるよう配慮します。



## 《患者の受け持ち》

最大8~10名までを受け持ち、指導医や時にはシニアレジデントとともに担当医として診療にあたります。最終的な診療上の責任は指導医にあります。

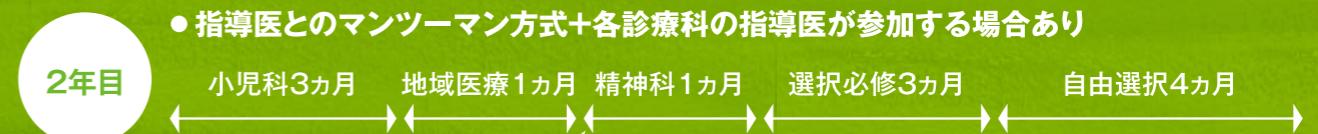


## 《剖検・手術》

担当患者が手術または剖検になった場合、必ず立ち合い所見を回診、またはカンファレンスで報告します。



プログラム期間中の2年間は、**早朝カンファレンス・回診、各診療科のカンファレンスへの参加が必須**になります。  
CPCを最低1回担当し、発表を行います。  
毎月1回開催される地域医療機関との合同症例検討会で症例発表を行い、**学会発表を複数回経験することも必須**です。



- |         |  |
|---------|--|
| 必 修     | 地域医療、小児科、精神科                             |
| 選 択 必 修 | 泌尿器科、産科、整形外科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科から3科3ヶ月 |
| 自 由 選 択 | 上記科目+脳神経外科、リハビリテーション科より4ヶ月               |

## 《協力病院・施設での研修》

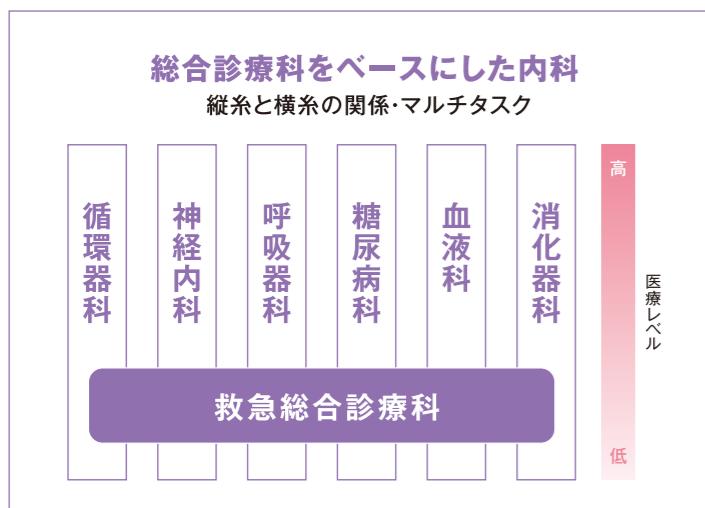
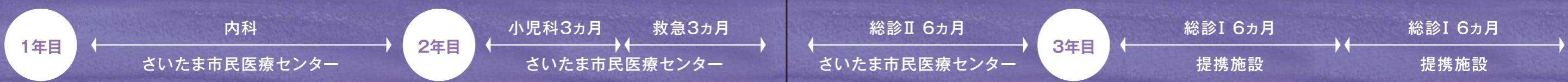
- 産 科 (1ヶ月) : 自治医科大学附属さいたま医疗センター
- 精 神 科 (1ヶ月) : 埼玉精神神経センター
- 地域医療 (1ヶ月) : 南魚沼市民病院

# 総合診療専門研修プログラム

高いプロフェッショナリズムと  
コミュニケーション能力を兼ね備えた  
“患者の軸”になれる医師に

2018年度から疾患管理の軸になれる医師の育成をスタート。救急総合診療科に属して急性期内科系疾患の管理を中心に学び、小児科、地域医療などをローテートし不足部分を補います。診療所、地域医療支援病院から大学病院まで、置かれた場所で活躍できるアカデミックな総合診療専門医を目指せます。

当センターは日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラムVer2を有しており、2018年からは日本専門医機構認定総合診療専門研修プログラムも開始しました。首都圏の政令指定都市で救急総合診療科を中心に研修し、一方でへき地医療や都市部の在宅医療も経験できるプログラムです。多様な疾患を通じて内科の基礎を学び、また、小児から高齢者、疾患から外傷まで幅広く経験できます。研修終了後に、総合診療専門医の受験資格が与えられます。



## 《指導体制と特徴》

当センターの内科系指導医は全員総合診療の経験を有し、かつサブスペシャリティの専門医として臓器別専門内科を担当しています。ERと内科を一体運営し、臓器別内科の壁を設げずに“内科”としており、救急外来から急性期病棟、回復期病棟までシームレスな診療を行います。治療方針は内科系医師全員が一堂に会する毎朝のカンファレンスで決定します。臓器別内科チームが縦糸、救急総合診療科が横糸となり、患者毎に最適なチームを構成する体制は、幅広い領域を研修すべき総合診療専門医研修に最適なシステムであると自負しています。

## 《シミュレーション教育と電子教科書》

シミュレーション教育として、BLSやICLS、JMECC（内科救急・ICLS講習会）を院内で開催。Saitama Stroke Networkの基幹病院に認定されており、ISLS（Immediate Stroke Life Support 神経救急蘇生）も実施し、救急総合診療科ではt-PA投与から脳血管内治療まで主体的に行ってています。電子教科書は欧米のホスピタリストも用いているUpToDate、英文臨床雑誌や教科書が読めるClinical Keyや今日の臨床サポートを採用。また、抄読会としてACP（米国内科学会）journal clubを毎週実施しているほか、埼玉プライマリ・ケア連合研究会などで開催されるポートフォリオ発表会に指導医と共に出席し、ポートフォリオの作成に関わります。

## 《地域医療の実践（総合診療I）》

当センターでは役割分担をしており、成人の「病気」は内科が担当し、成人の「ケガ」は外科が担当していますが、総診Iでは一人ですべての疾患に対応する能力を身につけます。地域医療のプログラムとしてへき地医療の実践にも力を入れていて、兵庫県の公立浜坂病院や公立村岡病院、新潟県の南魚沼市民病院で地域包括ケアシステムの実際を学びます。（希望に応じてさいたま市内の実施も可能）そのほか、明医研ハーモニークリニックと連携し病院医療から在宅医療へつなぐTransitional Careの研修もあります。さらに、希望に応じて日本医師会認定産業医の資格を取得したり、DMATの隊員に加わり災害医療の訓練を受けることも可能です。

## 《カンファレンス》

- モーニングカンファレンス : 毎朝、内科系医師全員で全ての新入院患者を対象にディスカッションを行っています。
- 内科総合カンファレンス : 毎月曜日、興味深い症例を検討しています。
- ケーススタディー : 第2月曜日、他病院・医師会の先生方を招き、臨床推論のオープンカンファレンスを開催しています。
- 外部講師による院内講演会(数回/年) : 外部講師を招いて講演会を実施します。
- 放射線読影カンファレンス : 放射線専門医によるレクチャーを実施しています。
- 心エコーカンファレンス
- 心臓リハビリテーションカンファレンス(多職種カンファレンス)



## 《提携施設》

### 【総診I】

- 医療法人明医研ハーモニークリニック
- ちづるファミリークリニック
- 公立浜坂病院
- 公立村岡病院
- 南魚沼市民病院

### 【総診II】

- 自治医科大学附属さいたま医療センター

## 選択科目



### 《整形外科》

上級医とペアを組み、指導を受けながら病棟・外来での業務や手術を通して、整形外科の基本的知識、技術の習得を目指します。当科は初期研修にて選択が可能で、期間中に本人の希望があれば、他病院の見学や学会などへの斡旋・紹介も積極的に行います。

### 《泌尿器科》

人口の高齢化に伴った泌尿器疾患(前立腺肥大症、前立腺癌、尿失禁など)の増加により、泌尿器科の臨床的需要は増大傾向にあります。初期研修時の目標は泌尿器科領域のプライマリ・ケアならびに泌尿器科特有の基本的検査、治療手技、診断知識の取得です。泌尿器科指導医による研修の下、短期間に習得できるカリキュラムを考えています。

### 《耳鼻咽喉科》

急性気道疾患やめまい疾患のプライマリ・ケアを学ぶことができます。具体的には、各検査や処置の習得を目標としたカリキュラムを考えています。また、実際の手術(鼓室形成術、鼻副鼻腔内視鏡手術、口蓋扁桃摘出術をはじめとする頸部良性手術)に参加することにより、局所解剖や各疾患についての理解を深めます。

### 《病理診断科》

内科や外科などから提出された検体の切り出しの仕方や病理診断の仕方を習得できます。病理解剖では病氣で亡くなられた患者さんの病気の状態を、肉眼所見と顕微鏡所見から学ぶことができます。

### 《脳神経外科》

脳血管障害や頭部外傷など、緊急対応の必要な疾患が多いのが当科の特徴です。急性期血行再建治療エビデンスの確立により、近年さらに急性期治療的重要性が注目されています。これらプライマリ・ケアの習得を目標としたカリキュラムを受けることができます。

### 《放射線科》

CT、MRI、血管造影を中心とした研修を行います。CT、MRIは撮像原理や造影理論、基本画像と解剖の理解、頭部・胸部・腹部の基本的疾患の診断、レポート作成が目標です。血管造影は主に腹部インターベンションの助手として、穿刺、カテーテル操作、圧迫止血、患者管理を修得することを目標とします。

### 《麻酔科》

当センターにおける麻酔科研修では、外科的侵襲から患者さんを護るという現代麻酔の基礎を、手術麻酔を通じて理解することを目標にしています。また、救命処置の基本となる気道確保、血管確保といった基本手技や循環・呼吸・液体管理といった全身管理の知識を理解・取得できるようにしています。

### 《リハビリテーション科》

回復期は急性期と生活(維持)期を結ぶ大切なステップとなる時期です。医療保険に加え、介護保険の利用を促し、介護支援専門員などと連携しながら、各種住宅サービスを確保していきます。患者・家族を中心に、医療・福祉・保健・地域は一体となって治療していく分野です。

疑問にお答えします!

## Q & A

さいたま市民医療センターで研修医に!  
でもその前にちょっと気になる、よくある質問にお答えします。

### Q1 研修スケジュールはどのように決まりますか?

A1 研修医の希望を聴取し、考慮したうえで2年間の研修プログラムを提供します。必修、選択必修は2月頃までに予定を立てます。相談による変更も可能です。

### Q3 研修中に当直はありますか?

A3 月平均4回程度あります。当直体制は、病棟と外来ともに対応し、内科系2名、外科系1名、小児科2名(輪番日は3~4名)で組んでいます。

### Q5 初期研修終了後の進路状況を教えてください。

A5 希望すれば採用試験があります。当センターで総合診療専門研修プログラムの専攻医として2名まで研修を継続することができます。他の研修病院で後期研修を行うこととなった場合は、研修先の病院を探していただきます。

### Q2 研修中の職場設備について教えてください。

A2 研修医用机、本棚、図書館、院内で可能なインターネット環境があります。今日の臨床サポート、Up To Date、医中誌、メディカル・オンライン、clinical·keyが常時利用可能です。

### Q4 宿舎はありますか?

A4 借り上げの宿舎3棟をご用意しています。宿舎にもよりますが、月額10,000円程度で利用できます。

### Q6 みなさんの通勤方法を教えてください。

A6 職員寮から通われる場合は車通勤不可のため、自転車を利用される方が多いです。徒歩では7分程度の距離です。寮以外から通われる場合は車を利用される方が多く、駐車場代は月額2,000円必要です。

## working condition Saitama Citizens Medical Center 設備・待遇・条件



#### ▶勤務条件

【給与】初期 1年次:34.7万円/月  
2年次:36.3万円/月  
後期 当院規程による

【勤務時間】午前8時30分～午後5時30分 ※週40時間勤務

【当直】月平均4回

【休日休暇】日曜日、祝祭日、年末年始(12/29~1/3)、夏季休暇3日間、  
年次休暇(年間20日間、初年度は10日)、忌引き休暇等

#### ▶社会保険等

【社会保険等】労働者災害補償保険、雇用保険に加入  
【健康管理】定期健康診断、B型肝炎・インフルエンザ等の予防接種  
【医師賠償責任保険】病院で負担(初期研修のみ)

#### ▶研修中の外部活動

●外部研修活動 学会、研究会への参加可。学会発表または研修等のための出張の承認を得られたときは旅費を支給

●外部診療活動 研修期間中は外部の診療活動(アルバイト)は禁止(初期研修のみ)

研修医は2年間の初期研修終了後、当センターが基幹病院として策定した、日本専門医機構認定専門医プログラム(後期研修プログラム)に進むことができる。更に後期研修専門医プログラム連携施設としてさいたま市民医療センターが参加する基幹病院のプログラムへ応募することができる。